

## 「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

## 目次

- ・用語解説  
「炭素税」……………P.1
- ・団体会員紹介  
「ストップ・フロン全国連絡会」…P.2
- ・会員の声・こんなことできる…P.3
- ・「お手紙ワークショップ」の紹介  
本の紹介・ボランティアの声…P.4

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止ストリート」を発行しています。

# ストリート

## 温暖化防止

街角

KIKO NETWORK

### 第3号

2003.9.1

よく聞くけど

「ん？」何だったかなーっと思う



## 用語：炭素税

温暖化対策のひとつとして「炭素税」の導入が検討されていますが、どのような制度なのでしょう。これは燃やすときにCO<sub>2</sub>が出る石油や天然ガス、石炭などの化石燃料に、炭素の含有量にあわせて税金をかけるものです。具体的には、ガソリンや灯油、都市ガスなどを買う時に炭素税を支払うことになります。この税金によって、化石燃料の価格が上がり、その使用量を減らそうとしたり、省エネ型の製品を選択することにつながります。また自然エネルギー普及の後押しにもなります。こうして、温暖化の防止につながるのです。

集めた炭素税を何に使うかも検討しなければなりません。例えば、低所得者の負担が重くならないように社会

保険料などを軽減したり、所得税・法人税を減税することに使うことができます。また、温暖化対策の費用にあてることもできますが、この場合、対策の効果や予算の配分方法に注意する必要があります。

新たな税がかかることには抵抗感があるかもしれませんが、省エネをする人や組織、企業が得をする制度になれば、温暖化対策が進むはず。炭素税の効果があられるまでには、少し時間がかかりますので、できるだけ早く導入することが必要です。効果もあって公平な仕組みの炭素税を早く実現させるためにも、多くの人々が話し合いに参加し、市民の意見を反映させることが重要です。

# 各地で活躍する仲間たち



## 全国ネットワーク組織

今回は、神奈川県横浜市に事務局がある、「ストップ・フロン全国連絡会」の紹介です。同会の桃井貴子さんから紹介していただきました。



桃井貴子さん



### ★ホップ・ステップ・脱フロン！！★

ストップ・フロン全国連絡会は地球温暖化やオゾン層破壊の元凶であるフロン類の全廃を目指し活動する環境NGOです。

当会は1992年の発足後、約9年間はフロン回収義務化に向けた活動に全力を投じてきました。数々のシンポジウムや勉強会、セミナーの開催で法制化の必要性を訴え、オゾン層破壊や地球温暖化問題に対する一般の認識を深めるとともに、ユニークなメンバーが集まった当会の特徴を生かし、単なる講演会やパネルディスカッションにとどまらず、劇や音楽会、ファッションショーなど魅力的なアトラクションを盛り込んで楽しみながら活動を展開してきました。また、関係省庁や国会議員らに対してロビー活動や政策提言も行ってきました。

気候ネットワークとの関係で言えば、政策的な側面、市民啓発的な側面の両面で協力してもらっています。まず、政策的なことについては、2001年に成立した「フロン回収破壊法」の実現に至る過程では、フロン回収義務化に対しては自動車関係などの業界団体の非常に強い反対がありました。そこで2000年、気候ネットワークとの連携で約80団体と1000人を越える人たちの賛同を得てフロン回収・破壊の法制化の実現を目指したネットワーク「フロンネット」を発足させ、よりパワフルな活動を展開することができました。このフロンネットの活動こそが功を奏して「フロン回収破壊法」が翌年に成立したといって過言ではありません。

最近では、当会は環境教育にも力を入れ、子ども向けの絵本を出版したり、学習用教材「オゾンそうってなんだろう」を発行したりしています。昨年からは子どもたちの夏休みにあわせて「オゾンキッズキャンプin富士山」を開催し、オゾン層保護や地球温暖化防止をテーマとしたキャンプを行っています。今年のキャンプでは気候ネットワークから事務局の田浦さんと岡さんに出席してもらい、温暖化についてのワークショップを担当してもらいました。

フロンは二酸化炭素などと違って人工的につくった化学物質です。ですから、私たちはHFCを含めてフロン類の大気放出を止めるための最良策は、現在の「フロン漬けの社会」からフロンを使わない社会「脱フロン社会」にしていくことだと考えています。気候ネットワークの中でもこの問題意識を共有し、政策提言、ロビー活動、市民啓発など様々な活動で協力しあえたら幸いです。



④ 「オゾンキッズキャンプin富士山」でのフロン回収体験の様子。



⑤ 子ども向け学習用教材「オゾンそうってなんだろう」(1,500円+税)

NPO法人 ストップ・フロン全国連絡会

<本部事務局>

〒233-0011 横浜市港南区東永谷3-20-5

TEL: 045-827-2526 FAX: 045-827-2527

E-mail: info@jason-web.org URL: http://www.jason-web.org/

谷口大さん (鳥取県)

こんにちは。いつも楽しく読ませていただいています。

私は現在鳥取に在住しており銀行員として働いています。

鳥取は海と山に囲まれ非常に自然豊かな土地なのですが、その豊かな土地を背景に自然エネルギーの利用が多く検討されています。風力発電はすでに計画が進んでおり、6基の風車が建設される予定です。畜産や林業も盛んなのでバイオマスエネルギーの利用も進んでいます。私もまだまだ利用の可能性は多いと思っています。

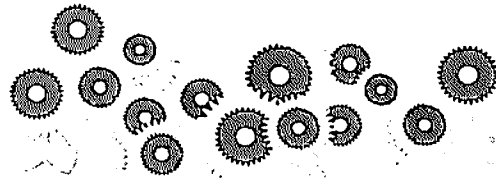
銀行が企画段階から関わりと計画も速やかに進むのではないかと思います。積極的に関わっていかうと日々努力しています。

生原一志さん (京都府)

私は、今年の春から京都市内の会社で働き始め、その会社の寮で暮らしています。

普段、自分自身としては、できる限り無駄のない生活をしているつもりです。しかし、寮の光熱費はタダという事もある、先輩は一日中クーラーも電灯もほとんどつけっぱなしです。理由を聞くと、「無料なのだから、ずっとつけておかない方がどうかしている。」と言っていました。

一応、寮の廊下には「節電」という貼り紙があります。しかし、努力目標だけで、人は変わりません。怖い先輩という事で、私の働きかけが不十分という事もありますが、人を変える難しさ、そして地球環境を変えるのはさらに難しいのだと改めて痛感させられる日々です……



皆様のご意見・自由なご発言を募集しております。皆様の声を遠慮なくお寄せください。次号は、11月発行ですので、10月20日までにご連絡ください。

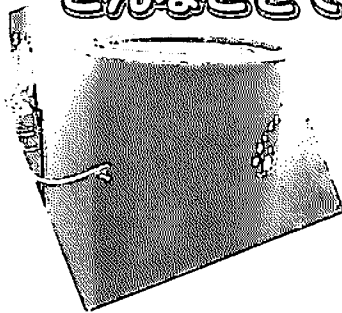


温暖化防止

こんなことできる!

このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

今回のテーマは「雨水利用」



自然エネルギーの一つといわれている雨水利用!どのような温暖化効果があり、どのように家庭に取り入れることができるのでしょうか。

雨水利用はハードウェアとしての「雨水」を利用する「貯留」と「浸透」と、ソフトウェアとしての「環境教育」があります。温暖化防止で考えると雨水利用は省エネルギーです。貯留して利用すると、水道水の代替により水道水の製造・輸送に伴うエネルギー削減になります。また、地下へ浸透させることにより、アスファルトと下水道を通じて下水処理するエネルギー削減となります。

1999年度の水道水と下水道事業における電力使用量は合計140億kWhで、日本の総電力使用量の約1.5%です。また、化石燃料の消費量は、間接的なダムの建設

時などにおける量を含めると全体の約2.8%となります。これは、日本の自動車約1千万台が1年で消費する量です。

環境教育では雨水を切り口に、全ての生物にとって重要な水循環を考えます。水循環にとって最大の障害は温暖化です。なぜ温暖化防止が大切かを学びます。

雨水利用はバケツにためて草花に撒くことから出来ます。雨水貯留タンクは、容量が200リットルで4万円程度から販売されています。日曜大工で家庭の雨樋に取り付けられます。容量を増やして水洗トイレに配管して利用すると節水効果は大きくなります。

京都・雨水利用をすすめる会 上田正幸  
(URL : <http://www.kankyoshimin.org/amamizu/>)

## お手紙ワークショップ



お手紙ワークショップは、気候ネットワークが進める温暖化防止教育活動の一つです。気候ネットワークのボランティアが中心となって、小学校高学年を対象に総合学習の時間などを利用して行っています。

温暖化のメカニズム・原因・影響についての説明や二酸化炭素を出している行動について考えてもらうクイズ、温暖化の原因とその対策についてみんなで考えるワークショップを行います。そして、小学生に「地球さんへ」お手紙を書いてもらい、それに対して、ボランティアが「地球から」のお返事を出します。

今までに、約20校の小学校で実施してきました。先生方からは、「一方的に聞くだけでなく、自分で考え、参加できるプログラムである。」「小学生と年の近いボランティアが一生懸命教える姿が小学生にもやる気を与える。」などの評価をいただいています。

この企画は、環境NGOと教育機関が連携をした温暖化防止教育の一事例として普及させていくべき活動だと考えています。

※自分たちの地域での企画・運営にご関心のある方、あるいは小学校での開催をご希望の方は、京都事務所までご相談ください。



お勧めの本の紹介です。

## 本の紹介

紹介者：平岡俊一（気候ネットワーク 地域温暖化防止研究会・コーディネーター）

### 「まちづくりの実践」

田村明著 岩波新書 1999年5月20日第1刷発行

本書では、企業誘致などのハコモノ中心ではなく、自然や歴史、風土など地域の個性を活かしたまちづくりについて、全国各地の実践例が数多く紹介されており、その中で環境保全に関する事例もいくつか紹介されています。読者は、一連の事例を踏まえ、そういったまちづくりの中で重要なものとして、地域の価値の発見と創造、そしてそれを

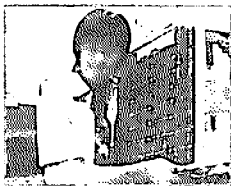


実践するヒトの存在などを挙げています。これらは、私たちが取り組んでいる地域レベルでの温暖化防止活動においても、十分に考慮するべきものであると言えます。また、市民主導による環境保全の取り組みが、地域活性化の重要な手段になるものであることを、改めて認識させられた一冊です。

<本体660円+税 209ページ>

## ボランティアの声

※ 持ちしめているのは太陽光発電パネルです



気候ネットワークではたくさんのボランティアと一緒に活動しています。そのボランティアからのコメント！

京都ボランティア 中野大

立命館大学政策科学部3年の中野大です。ボランティアを始めて1年と少し、最初は「地球温暖化問題って何？自然エネルギーを普及させることって社会貢献になるの？どうやって普及させたいの？」と疑問だらけの私でした。それが、自然エネルギー普及研究会のコーディネーターとして研究会の運営をしたり、地域での自然エネルギー普及について考えたりと、好奇心あふれる、ゆかいな学生、社会人、専門家の方々に囲まれボランティア活動を送るうちに、その疑問に答える軸が見えてきました。これからはその軸と自然エネルギーにかける情熱を形にしていきたいと思ひます。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

## 編集後記

新しくなった気候ネットワークホームページはご覧いただけましたでしょうか？約1ヶ月で1万人の方からのアクセスがあり、とてもうれしく思っています。（カウンターは、トップページの右上に小さく表示してあります。）

また、新しい会員さんも増えてきています。ホームページの改定と、この「ストリート」の作成が一役買っているかと思うとうれしいかぎりです。今後もよりよいストリートを作っていこうと思ひます。（おかゆ）



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田春海 / 事務局長：田浦健爾

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」3号  
2003年9月1日発行（隔月1日発行）  
編集・DTP：岡塚子

京都事務所（本部）  
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305  
TEL：075-254-1011 FAX：075-254-1012  
E-mail：kikonet@jca.apc.org

東京事務所  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F  
TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463  
E-mail：kikotko@jca.apc.org

